

発掘新聞

7月9日号

平成25年度第4号

編集・発行

九州歴史資料館

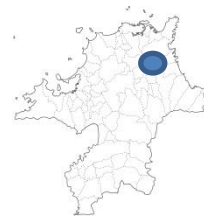
電話 0942-75-9575

新たな首長居館発見か！？



昨年度発見の居館区画 溝と同様の溝を発見！

区画の可能性ある溝から出土した多量の土器
(行橋市延永ヤヨミ園遺跡) 〓 当館撮影



このたび
5月半ばか
ら発掘調査
を行っている

行橋市の延永ヤヨミ園遺跡で新たな発見があった。

この遺跡では、昨年度古墳時代初頭(約1700年前)の首長居館と考えられる正方形の区画溝が見つかっている(当館HP参照)。今回発見された溝は、昨年度発見のものと同幅や形、出ている土器が酷似しており、同じ時代のものと考えられる。

他の居館でも区画が並んで作られる例があり、周辺地域を治めていた「首長」の実像解明に向けて、また一つ新たな資料が増えたことになる。

このほかにも、同時期の堅穴住古墳時代初頭の住居跡内の壁溝内で検出されたピツト。きれいに並んでいるのが分かる。



居跡に作られた壁溝(へきこう)住居を廻るように掘られた細い溝で左写真のような径2〜3cmの小さな穴が約25cm間隔で見つかっている。この穴については、細い木柱を立てて、横板を渡し、住居周辺の土が流れ込まないようにしたという説や、壁に寄りかかれるよう藁(むしろ)などを貼っていたのではな

いかという説など多くの解釈があり、未だ結論が出ていない。調査を担当している吉村室長補佐は、「調査範囲が狭く、区画になるかはまだ分からないが、昨年度の居館の溝と同時期であり、何らかの関係があるだろう。付近にはまだ時期不確定ながらも建物跡が見つかっており、今後慎重に精査を進めていきたい」と話している。

(城門記者)

【階段下収納か】

右写真は上で紹介した住居跡の入り口と考えられる場所にある土坑(通称屋内土坑)である。その手前に小さな黒い●(赤矢印部分)が見えるだろうか？これははしごや階段を建てていた痕跡かもしれない。その場合、屋内土坑は階段下収納として作られていたということになる。スペースを余すところなく使い、エコな生活を送っていた当時の人々の様子が偲ばれる。



階段下収納の可能性のある住居内の土坑

【告知】

昨年度掘った遺跡を担当者がわかりやすく紹介！

「発掘速報会2013」

受付中！

9月7日(土) 14時〜

@九州歴史資料館2階研修室